

編集後記

会員の皆様は既にご存知のように、平成 18 年 6 月 2 日に開催された平成 18 年度通常総会で下記の議案が承認されました。

1. 原田英樹前会長から芳賀美次新会長へ、阿部城士前副会長から大森賢次新副会長へ引継ぎ。そして原田前会長は引き続き CEO として会長を補佐、阿部前副会長も引き続き顧問として協会の運営に意見を述べていただけることになりました。

原田前会長、阿部前副会長は 1996 年から 10 年間のながきにわたり、会長、副会長として技術革新と海外生産移管で激動するボンド磁石業界の発展の為に尽力されました。厚く感謝申し上げます。

2. 芳賀新会長、大森新副会長は日本ボンド磁石工業協会からソフト磁性材料などを含めたボンド磁性材料全般を対象とする日本ボンド磁性材料協会への協会名称変更と同時に役員に就任されました。ソフト磁性材料とハード磁性材料の特長を活かして新たなボンド磁性材料産業が誕生し大きく成長するようご尽力、ご指導をお願い申し上げます。

3. ソフト磁性材料とハード磁性材料はいわゆる BH 曲線を基本物性としていますが、ソフトは低保磁力、ハードは高保磁力と両極端を目指しています。

共通するのは両者とも高 B を目指していることでしょうか。

ボンド協会としてこの相反する磁性材料をどのように会員の為に活かしていくか難題ですが、手がかかりとして 2006BM シンポジウムで講演される三菱電機の樹脂鉄心材料と希土類ボンド磁石を複雑な形状で組み合わせてモータ効率を大幅に改善した例があげられるでしょう。

また高周波や高速回転で渦電流損失が問題になってくる場合、ハード磁性材料もソフト磁性材料も抵抗値をあげるため樹脂やセラミックス、硝子等でボンドした材料が優位になるかも知れません。

新生「日本ボンド磁性材料協会」の益々の活躍を祈念いたします。

機関誌編集委員長
多田 健雄